

中部様式1

資料1

令和元年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価概要（全体）

安城市総合交通会議

平成20年7月31日設置

フィーダー系統	平成30年6月21日	確保維持計画策定等
計画推進事業	平成31年4月26日	計画策定

1.協議会が目指す地域公共交通の姿 (Plan)

2

＜安城市の特性と背景＞

- 愛知県のほぼ中央に位置し、人口190,073人（令和元年12月現在）総面積86.05 k m²。
地域特性でもある自動車関連企業が多いことから自動車分担率は7割近くであり非常に高く、公共交通の利用率は約1割と低い状況である。

公共交通が目指す姿

日常生活になじむ公共交通をみんなが利用することによって、気軽におでかけできるまち

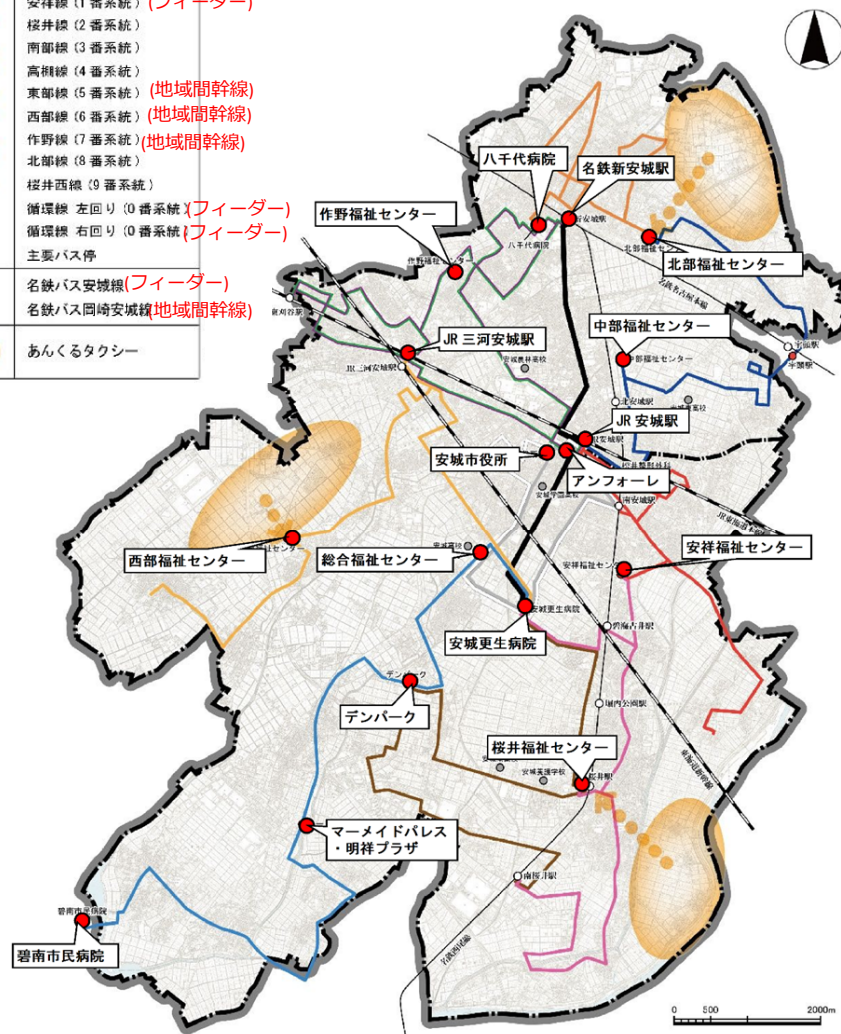
(安城市地域公共交通網形成計画 2018年度～2022年度)

公共交通体系の基本方針

- 基本方針 1** 多様な交通手段が相互に連携した持続可能な公共交通ネットワークの維持・活性化
- 基本方針 2** 将来都市構造を誘導するために強化した公共交通軸の維持・活性化
- 基本方針 3** 公共交通への利用転換を図る各種施策の継続展開
- 基本方針 4** みんなで取り組む仕組みの構築による持続可能な公共交通の実現・活性化

凡 例	
あんくるバス	
安祥線 (1 番系統) (フィーダー)	
桜井線 (2 番系統)	
南陽線 (3 番系統)	
高瀬線 (4 番系統)	
東部線 (5 番系統) (地域間幹線)	
西部線 (6 番系統) (地域間幹線)	
作野線 (7 番系統) (地域間幹線)	
北部線 (8 番系統)	
桜井西線 (9 番系統)	
循環線 左回り (0 番系統) (フィーダー)	
循環線 右回り (0 番系統) (フィーダー)	
主要バス停	
名鉄バス安城線 (フィーダー)	
名鉄バス岡崎安城線 (地域間幹線)	
あんくるタクシー	

＜ネットワーク概要図＞



＜安城市地域公共交通網形成計画の維持・活性化計画＞

安城市地域公共交通網形成計画の 基本方針	公共交通の維持・活性化計画							
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
基本方針 1	○	○	○	○	○	○		
基本方針 2	○		○	○				
基本方針 3	○	○					○	○
基本方針 4							○	○

- ① サービス水準に応じた運行
- ② 名鉄バス岡崎・安城線の維持・活性化
- ③ 名鉄バス安城線の延伸検討
- ④ 循環線の路線見直し
- ⑤ あんくるバスのサービス改善
- ⑥ あんくるタクシーのサービス改善
- ⑦ 公共交通の利用促進策
- ⑧ (仮称)地域の交通を応援する会の取り組み

＜これまでの主な取り組み＞

○あんくるバス循環線の見直し、名鉄バス安城線の延伸（H30.10.1～）【①③④】

利用者の増加に伴い、運転手の休憩時間を考慮し、ダイヤの見直し等以下の内容を実施

- ・循環線の運行ルートをつかりやすくするため、H30.10から**左まわりを右まわりと同様のルートで運行**
- ・パターンダイヤ化を行い、乗り継ぎ拠点となっている安城更生病院では、**右まわりと左まわりが30分おきに運行**（名鉄バスをあわせると、15分間隔でバスが発車）
- ・名鉄バス安城線を市内の主要な観光施設である**デンパークへ一部延伸**を実施

○バスロケーションシステム等の運行情報の見える化（H26～）【⑤⑦】

- ・主要なバス停やWEBサイト（あんくるバス乗車案内サイト）でバスの運行情報を提供
- ・ジョルダン、ナビタイム、駅すぱあと、**Googleマップ(R1～)**であんくるバスダイヤ情報等を提供

○バス案内人業務（H26～）【②⑤⑦】

- ・主要バス停にバス案内人を配置し、バスの利用方法、乗り継ぎ案内、施設情報等の各種問い合わせに対応



（安城更生病院バス停のバス案内人）

＜地域公共交通調査事業（計画推進事業）の実施内容＞

○利用実態調査【⑤】

- ・ R1.9にあんくるバス及び市内を運行する路線バス（安城線、岡崎・安城線）において**乗込み調査を実施**。また、**同時にアンケートを配布**し、バス利用の満足度及び改善事項等を確認
- ・ 利用実態調査とあわせて、**市民アンケートを実施**

○バス時刻表、バスマップ等の作成、配布【⑤⑦】

- ・ R1.10にあんくるバスの一部ダイヤ改正にあわせて、時刻表、バスマップを作成
- ・ バス時刻表、バスマップは、公共施設、バス車内、病院等、市内外の約40か所で配布
- ・ 夏休み小学生無料キャンペーンを実施した際に、おすすめプランを記載した利用促進チラシを配布

○バス活用ガイド冊子の作成、配布【②⑤⑦】

- ・ バスの乗り方やバスを使ったお出かけプランの情報等に修正を加え、公共施設等で配布
- ・ 高齢者の運転による事故の状況や運転免許自主返納の支援事業（あんくるバス無料乗車券2年分プレゼント）の紹介など、警察と協力して作成
- ・ 今年度、主に高齢者を対象に実施した**バスの乗り方教室において、バス活用ガイド、時刻表、マップを配布**した。

参加者の方からは、「バスについて、自分が知らないことを知ることが出来た。今後に活かせると思います。」などのご意見をいただき、**好評であった。**



(バスの乗り方教室の様子)

3.計画の達成状況の評価指標とその結果 (Check)

5

<安城市地域公共交通網形成計画の平成30年度計画達成状況>

	目標値 [2022年度]
公共交通全体の年間利用者数	1,602万人
鉄道の年間利用者数	1,511万人
バスの年間利用者数	91万人

計画の全体目標の中で、バス利用者数について、平成30年度（2018年度）における達成状況を確認。目標値は利用者及び人口の増加率から算出。

<結果>

- ・バス路線13路線のうち9路線で目標値を達成。

		網形成計画 目標値	利用実績 H30.4～H31.3	達成 状況	確保維持改善計画 目標値	利用実績 H30.10～R1.9	達成率	達成 状況	備考
あんくるバス	循環線 右まわり	97,587	97,564	未達成	230,000	193,473	84.1%	未達成	フィーダー系統
	循環線 左まわり	123,411	109,953	未達成					
	安祥線	23,956	27,779	達成	25,500	28,130	110.3%	達成	フィーダー系統
	桜井線	39,787	37,876	未達成					
	南部線	33,415	33,422	達成					
	高棚線	32,067	32,671	達成					
	東部線	29,042	31,854	達成	31,500	34,990	111.1%	達成	地域間幹線系統
	西部線	53,710	58,052	達成	55,000	61,055	111.0%	達成	地域間幹線系統
	作野線	51,996	58,256	達成	55,000	58,885	107.1%	達成	地域間幹線系統
	北部線	34,699	38,807	達成					
	桜井西線	46,187	52,549	達成					
あんくるタクシー(3地区)		446	439	未達成					
名鉄バス	岡崎・安城線	48,305	46,450	未達成	59,000	46,625	79.0%	未達成	地域間幹線系統
	安城線	243,704	245,078	達成	273,500	291,003	106.4%	達成	フィーダー系統
網形成計画目標値		858,313	870,750	達成					

※網形成計画はH30.4～H31.4、確保維持改善計画はH30.10～R1.9を評価期間としています。

＜地域内フィーダー系統補助対象路線の評価＞

- ・ **あんくるバス循環線**について、H30.10からの減便のため利用者数は減少し、網形成計画及び確保維持改善計画で設定した目標値を達成できなかったものの、**1便あたりの利用者数は減便前と比較して増加**しており、影響は少なかったと認識している。

循環線 1便当たりの乗車人数

	H29年度 10～3月	H30年度 10～3月
循環線・右	17.8 人	18.9 人
循環線・左	17.8 人	18.8 人

- ・ パターンダイヤ化したことについて、利用者の方からは「覚えやすくいいと思います」などのご意見をいただいております、**パターンダイヤ化により利便性が向上**したと認識している。

＜地域間幹線系統補助対象路線の評価＞

- ・ **名鉄バス岡崎・安城線**の利用者は、H29.10からの減便の影響により利用者は減少しており、網形成計画及び確保維持改善計画で設定した目標値を達成できなかったものの、**利用者数は減便前と比較して同程度で推移**しており、影響は少なかったと認識している。

[今後の方針]

- ・ 岡崎市や名鉄バス(株)と連携し、利用促進を図りながら、路線のあり方について、**必要性等も含めて検討**を行う。

＜その他路線の評価＞

- ・ **あんくるバス桜井線**については利用者が減少したが、これはダイヤ改正により桜井線と同じく桜井駅や安城更生病院に停まる**桜井西線に利用者が移ったため**と考えられる。
- ・ **あんくるタクシー**は、昨年度と比較して利用者は増加したが（H29利用者数395人に対し、H30利用者数439人）目標には達しておらず、**利用者は少ない状況**である。

(令和2年1月9日 安城市総合交通会議で協議)

<課題等>

- ・ あんくるバスについて、循環線のパターンダイヤ化のように利便性の向上のための取り組み等を実施しており、多くの路線で利用者が増加しているが、**利用者が減少した路線もある**。
- ・ あんくるタクシーについて、ある程度認知されているが、**デマンド型タクシーの具体的な利用方法が浸透していない**ことが、利用者が少ない原因の一つと考えている。

<取り組み>

○利用実態調査の分析及び必要な見直しの実施

バスロケーションシステムにより、遅れの状況、乗務員の休憩時間の取得状況及びバス停間の運行時間を把握し、乗継時間の見直しを行う。また、**今年度実施した利用実態調査及び市民アンケートの結果について細かな分析**を行い、利用者減となった路線についてダイヤ改正等必要な見直しを行う。

○あんくるタクシー運用方法の検討

あんくるタクシーについては、乗り方教室等を引き続き行い、**具体的な利用方法の周知**を行うとともに、運用方法等について、利用ニーズに合った運行となるよう、運行事業者と協議し、運行形態の改善等の検討を行う。

令和元年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価概要（経緯）

安城市総合交通会議

平成20年7月31日設置

フィーダー系統	平成30年6月21日	確保維持計画策定等
計画推進事業	平成31年4月26日	計画策定

直近の第三者評価委員会 における事業評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
バスロケーションシステムの運用や、乗換検索サイトへの対応により、運行情報の見える化に加え、バス案内人業務によるバス停でのバスの利用方法、乗り継ぎ、施設情報の案内等、きめ細かな利便性向上策を実施したことを評価します。 高齢者や転入者を対象にモビリティ・マネジメントを実施したことや、バス利用に関する様々な情報を掲載した「バス活用ガイド」を作成し、警察とも連携し運転免許の返納に繋げていったことを評価します。 今後は、平成30年4月に作成された網形成計画に基づき事業を実施し、PDCAサイクルにより、より良い地域公共交通ネットワークの維持・活性化に努めていただくことを期待します。	昨年度に引き続き、バスロケーションシステムの運用等の利便性向上策や、乗り方教室等のモビリティマネジメントを実施した。 また、網形成計画に基づき実施したダイヤ改正や一部ルート変更について、改正後の利用実態や市民の満足度等を把握するため、利用実態調査、バス利用者アンケート、市民アンケートを実施した。	今後も引き続き利便性向上策等を実施し、公共交通利用の維持・活性化を図りたい。 また、利用実態調査及びアンケートの結果を細かく分析し、ダイヤ改正等必要な見直しを行いたい。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和2年1月9日

協議会名: 安城市総合交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
【補助対象となる事業者名 等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名、運行 (航)区間、整備内容等を記載 (陸上交通に係る確保維持事 業において、車両減価償却費 等及び公有民営方式車両購入 費に係る国庫補助金の交付を 受けている場合、離島航路に係 る確保維持事業において離島 航路構造改革補助(調査検討 の経費を除く。)を受けている場 合は、その旨記載】	【事業評価の評価対象期間に おいて、前回の事業評価結果 をどのように生活交通確保維持 改善計画に反映させた上で事 業を実施したかを記載】	A ・ B ・ C 評価	【計画に基づく事業が適切 に実施されたかを記載。計 画どおり実施されなかった 場合には、理由等記載】	A ・ B ・ C 評価 【計画に位置付けられた定 量的な目標・効果が達成さ れたかを、目標ごとに記載。 目標・効果が達成できな かった場合には、理由等を 分析の上記載】	【事業の今後の改善点及びより 適切な目標を記載。改善策は、 事業者の取り組みだけでなく、 地域の取り組みについて広く記 載。特に、評価結果を生活交通 確保維持改善計画にどのよう に反映させるか(方向性又は具 体的な内容)を必ず記載するこ と。】 ※なお、当該年度で事業が完了 した場合はその旨記載
名鉄バス(株)	名鉄バス安城線 名鉄新安城駅～JR安城駅～安 城更生病院	ポケット時刻表、バスマップの 作成、HP、携帯、スマートフォン での時刻検索システム、パスロ ケーションシステムを提供しな がら利用者利便の向上に努め た。	A	計画通り事業を実施した	A 安城線の利用者数は 291,003人であり、目標値で ある273,500人を上回った。	乗り込み調査等で引き続き利 用者の状況等を把握しながら、 これまで取り組んできた利用促 進事業に改善を加えて継続的 に実施することで、さらなる活性 化を図りたい。
名鉄バス(株)	あんくるバス 循環線右まわり 安城更生病院～JR安城駅～安 城更生病院	パスロケーションシステム等 による情報提供やバス案内人、 バス活用ガイドなどにより、利 用促進を引き続き実施した。	A	計画通り事業を実施した	A 循環線右まわりの利用者数 は96,802人となり、循環線左 まわりの利用者数96,671人 と合わせて193,473人とな り、目標値である230,000人 を下回った。H30.10からの 減便のため利用者数は減 少したものの、1便あたりの 利用者数は減便前と比較し て増加しており、影響は少な かったと認識している。	今年度実施した利用実態調査 及び市民アンケートの結果につ いて細かな分析を行い、ダイヤ 改正等必要な見直しを行う。
名鉄バス(株)	あんくるバス 循環線左まわり 安城更生病院～JR安城駅～安 城更生病院	パスロケーションシステム等 による情報提供やバス案内人、 バス活用ガイドなどにより、利 用促進を引き続き実施した。	A	計画通り事業を実施した	A 循環線左まわりの利用者数 は96,671人となり、循環線右 まわりの利用者数96,802人 と合わせて193,473人とな り、目標値である230,000人 を下回った。H30.10からの 減便のため利用者数は減 少したものの、1便あたりの 利用者数は減便前と比較し て増加しており、影響は少な かったと認識している。	今年度実施した利用実態調査 及び市民アンケートの結果につ いて細かな分析を行い、ダイヤ 改正等必要な見直しを行う。
東伸運輸(株)	あんくるバス 安祥線 川島～JR安城駅～川島	パスロケーションシステム等 による情報提供やバス案内人、 バス活用ガイドなどにより、利 用促進を引き続き実施した。	A	計画通り事業を実施した	A 安祥線の利用者数は28,130 人であり、目標値である 25,500人を上回った。	乗り込み調査等で引き続き利 用者の状況等を把握しながら、 これまで取り組んできた利用促 進事業に改善を加えて継続的 に実施することで、さらなる活性 化を図りたい。

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和2年1月9日

協議会名:	安城市総合交通会議
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	目指す姿:「日常生活になじむ公共交通をみんなが利用することによって、気軽におでかけできるまち」 ＜基本方針＞ ・多様な交通手段が相互に連携した持続可能な公共交通ネットワークの維持・活性化 ・将来都市構造を誘導するために強化した公共交通軸の維持・活性化 ・公共交通への利用転換を図る各種施策の継続展開 ・みんなで取り組む仕組みの構築による持続可能な公共交通の実現・活性化

(別添1)

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(計画推進に係る事業)

令和2年1月9日

協議会名:安城市総合交通会議

①事業の結果概要	②事業実施の適切性		③事業の今後の改善点 (特記事項含む)
【事業内容及び結果概要を記載】	A ・ B ・ C 評価	【事業が適切に実施された(されている)か記載。 適切に実施されなかった(されていない)場合には、 実施されなかった事項及び理由を記載。】	【事業の今後の改善点として、取組内容・関係者それ ぞれが果たすべき役割等を記載。】
・利用実態調査として、OD調査及び利用者ヒアリング を実施した ・バス時刻表、バスマップ、利用促進チラシの配布を 行った。 ・バス活用ガイド冊子の作成、配布を行った。	A	計画どおり事業を実施した	調査やアンケートの結果、公共交通に関する取組の認 知度が低いため、周知を行う。 また、ワークショップ等によるコミュニティバス等の公共 交通についての周知を行う。

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和2年1月9日

協議会名:	安城市総合交通会議
評価対象事業名:	地域公共交通調査事業(計画推進事業)国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	目指す姿:「日常生活になじむ公共交通をみんなが利用することによって、気軽におでかけできるまち」 <基本方針> ・多様な交通手段が相互に連携した持続可能な公共交通ネットワークの維持・活性化 ・将来都市構造を誘導するために強化した公共交通軸の維持・活性化 ・公共交通への利用転換を図る各種施策の継続展開 ・みんなで取り組む仕組みの構築による持続可能な公共交通の実現・活性化